

青少年育成センターだより



第55号 平成30年12月

いざ行かん 雪見にころぶ 所まで

松尾芭蕉



本格的な冬がやって来ました。皆さんは、「夏と冬どちらが好きですか？」と問われたら、どちらと答えられるのでしょうか。「冬が好き。寒くてしんしんとした空気が気持ちいいから」と答えられる人もいらっしゃるのではないのでしょうか。さあ、遊び心を發揮して芭蕉のようにころぶ所まで、雪を見に行ってみませんか。

いま、子どもに教えたこと

駅のホームで列車を待っていた時の光景です。

忙しい時間帯で、多くの乗客が2列に並んで列車が来るのを待っていました。しばらくすると、母親とその子どもと思われる2人連れがやって来ました。やがて列車がホームに到着すると、子どもは降車客たちをすり抜け、並んで待っていた人より先に乗車したのです。そして、ちゃっかりと椅子に座り、遅れて来た母親にむかい、「お母さん、こっち」と呼び、座るように促しました。後から乗ってきたお母さんは、当然のようにその席に座りました。

いかがでしょうか、このような光景を見られた方はおられませんか？お母さんも一日、子どもと一緒にいると疲れることでしょう。座りたいという気持ちは分かります。しかし、子どもがこのような行動をとった時には、親としてどうしたら良いのでしょうか？皆さんでしたらどのようにされるのでしょうか？親が指導しなかったせいで、子どものこれからの人生が不安です。

最近では、上記のような事例だけでなく、立っている人がいるのに、自分の席の隣に荷物を置き、席を2人分にとって平気な顔をしている若者、また、スマートフォンを見ていて他の人に席を譲ろうとしない若者を見る機会が増えました。このようなことでは、世の中が明るくなるとは考えられません。バスや列車では、「待っているときにはきちんと並び、順番に乗る」「老人や妊婦が立っていたら席を譲る」ことが大切であることを私たち大人が子どもにきちんと教えなければなりません。子どもには、我慢することや人を思いやることの大切さを教えることが必要です。できれば、小さい時に教えることが大切です。

以前、「青少年育成センターだより第28号」で素敵な子どもたちを紹介しました。その一つに、バスの車中で老人に席を譲った生徒がいて、学校に感謝の電話があったということを書きました。気持ちの良い話です。ぜひこのような子どもが増えてほしいものです。

困っている人や弱者に自然と手を差し伸べることができる、「そくいん惻隱の情」を子どもの心に育むことが、子どもを幸せにする秘訣なのではないのでしょうか。それが親として、大人としての責任なのです。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）